



青木の風

生きる 創る そして輝く

学校だより 5月号

令和8年4月30日

横浜市立青木小学校

徳を積み立てる

校長 杉山 嘉子

ピンク色の花を散らした校庭の桜が、今はすっかり新緑の葉で覆われています。校長室の窓から校庭を見ると、目にまぶしいほどの青空と陽光の中で子どもたちが元気に遊んでいて、新緑同様、いつまで眺めていても飽きないくらい、命の息吹にあふれています。

4月15日には、子どもたちの手による「1年生を迎える会」が行われました。1年生たちは6年生のお兄さんやお姉さんと手をつなぎ、全校児童から「入学おめでとう」の拍手で迎えられ青木小学校の仲間入りをしました。1年生を迎える2～6年生たちがつくる温かな雰囲気も青木小ならではのものだなあと感じ、そんな子どもたちの育ちに心から嬉しく思いました。

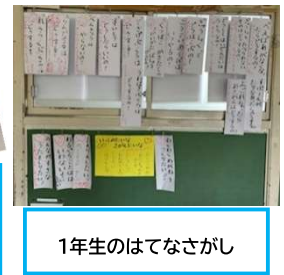
1年生は青木での生活が始まって15日ほどですが、「～したい」の意欲にあふれています。自前の「わくわくめがね」「楽しいめがね」をつくり、校内の「はてな」さがしに一生懸命な子、「校長先生、みつけたよ」、「校庭から無事に戻ってきてちゃんと並んでます！」と校長室に報告に来てくれる子、また日々の教師のしかけに気付き、次のわくわくにつなげている子どもたちの姿を見守る担任たちと、毎日がドラマにあふれています。



2～6年生からのプレゼント



わくわくめがね
楽しいめがね



1年生のはてなさがし

このように新年度が始まり3週間は、子どもたち、教職員の素敵な姿に出会う毎日です。

「徳の積み立て投資」。これは、昨年の夏ごろ視聴していたあるドラマの主人公のセリフです。大変印象深く、そして私の中の流行語大賞にもなりうる言葉でした。この作品の中で「競技かるた部」に所属する主人公の高校生が、「自分のものだけでなく他の人の靴もそろえる」「かるた部が使っている畳の掃除をする」など、人の見ていないところでも、人のためにもなる行いを続け、それを「徳の積み立て投資」と表現していました。相手を思いやる心をもつこと、正しい行い、誠実な行いをする、相手をリスペクトすることなど、目には見えない心の財産を積むことは、自分自身の成長、相手との信頼関係の構築につながります。私自身も心がけて生活したいと思っています。青木小学校の生活では、子どもたち、教職員の「徳の積み立て」ともいえる素敵な姿がたくさん見られます。見ようとする気持ちをもつことで、さらにそのような場面との出会いも多くなりました。新しい環境にも少しずつ慣れてくるころです。子どもたちも教職員も、自分のよさとともに相手のよさ、互いの素敵な行動にも目を向けられるよう、心の余白をもって生活できる一か月にしていきたいと思います。

今月もどうぞよろしくお願いいたします。